

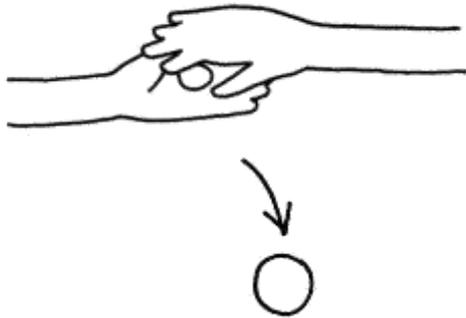
# 伝統遊具づくり **起き上がり小法師**

だるまは、遠磨大師の座禅姿を模して作られた縁起物玩具で、各地の縁日などには必ず登場し、江戸時代には、庶民の生活に深くとけこんでいきました。その中で座低におもりをつけ、倒してもすぐに元に戻るといふ「起き上がり小法師」は、全国的に人気があり、色々な種類のもので出回るようになりました。

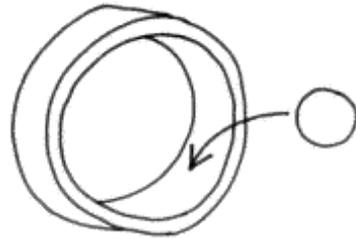
材料：ガムテープの芯などの筒状のもの1個・紙ねんど・画用紙  
道具：はさみ・木工用ボンド・サインペン

## 《作り方》

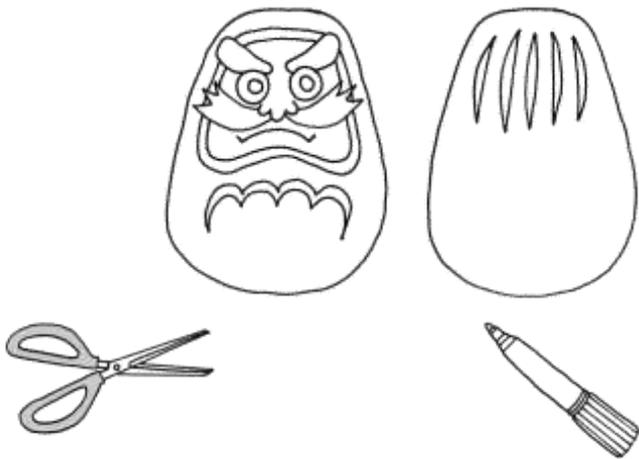
1. 紙ねんどをまるめる。



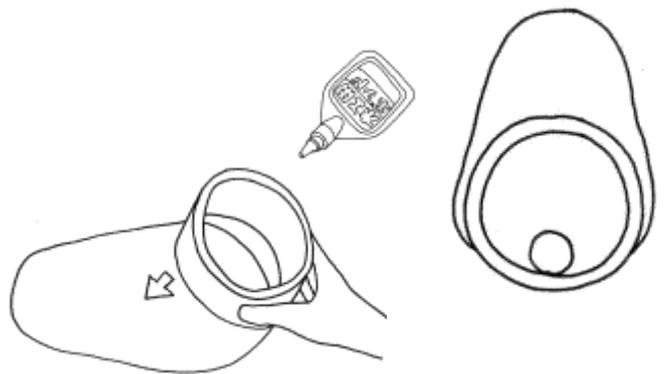
2. パチンコ玉を丸めた紙ねんどを筒にボンドを塗って固定する。



3. 筒の輪の大きさに合わせて画用紙にだるまの絵を2枚(表、裏)描き、はさみで切り取る。



4. 紙ねんどをつけた筒のふちにボンドを塗り、だるまの絵を貼る。この時、ガムテープの芯が画用紙の下から出るように気をつける。



## 《遊び方》

図のように押すとだるまがゆらゆら揺れます。  
いろいろな動物の絵を描いてみましょう！

